

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 東京都都立府中けやきの森学園 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

事務局長：主幹教諭（教務主任）

事務局員：主幹教諭（知的障害教育部門小学部担当）

主幹教諭（知的障害教育部門中学部担当）

主幹教諭（肢体不自由教育部門高等部担当） 計4名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長3名、経営企画室長、主幹教諭4名 計9名

(4) 協議委員の構成

渡部 匡隆氏（横浜国立大学 教授）

宮崎 家光氏（株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ T&G ソーシャルファーム
東京サポートセンター長）

清水 俊夫氏（都立府中療育センター 院長）

成清 敏治氏（府中市立府中第二中学校 校長）

増渕 英夫氏（ハローワーク府中 府中公共職業安定所 所長）

原田 志織氏（多摩府中保健所 歯科保健担当課長）

高橋 美佳氏（社会福祉法人あけぼの福祉会 地域生活支援センターあけぼの 所長）

長尾 英治氏（調布わかばの会 事務局長）

高木 かほり氏（調布市福祉健康部子ども発達センター センター長）

橋本 暢子氏（都立府中けやきの森学園PTA統括会長） 計10名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会の開催日時、出席者、内容

第1回 令和7年6月6日（金）午前10時から午前11時40分まで

出席者：内部委員9名、協議委員9名

内 容：①校長挨拶

②委員紹介

③令和7年度学校経営計画について

④教育実践の視察

⑤意見交換

第2回 令和7年10月29日（水）午前10時から午前11時40分まで

出席者：内部委員7名、協議委員7名

内 容：①校長挨拶

②学校経営中間報告について

③教育実践の視察

④SDGsに係る活動とデジタル教科書を活用した学習指導の紹介

⑤意見交換

第3回 令和8年2月20日（金）午前10時05分から午前11時45分まで

出席者：内部委員9名、協議委員6名

内 容：①校長挨拶

②学校評価アンケートの結果及び分析について

③意見交換

④次年度に向けた提言について

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容

第1回 令和7年6月6日（金）午前9時30分から午前9時55分まで

出席者：内部委員20名、評価委員2名

内 容：①学校運営連絡協議会評価委員会実施計画について

②学校評価アンケートについて

第2回 令和7年10月29日（水）午前9時30分から午前9時55分まで

出席者：内部委員2名、協議委員2名

内 容：①学校評価の基本方針について
②学校評価アンケート項目について（検討）

第3回 令和8年2月20日（金）午前9時30分から9時55分まで

出席者：内部委員2名、評価委員2名

内 容：①学校評価アンケート分析結果について
②評価委員会提言について

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（1）学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

（2）アンケート調査の実施時期・対象・規模

1 1月から1月まで実施

・全校児童・生徒	対象：394人	回収：373人	回収率：94.2%
・保護者全員	対象：394人	回収：314人	回収率：79.7%
・全校教職員	対象：217人	回収：217人	回収率：100.0%

（3）主な評価項目

・保護者、教職員

ウェルビーイングを目指した児童・生徒が自分らしく成長していくための学び、教育方針や取組内容等の周知、QOLの向上を図るための教育課程の改善、個別指導計画における各学習の目標・ねらい・評価規準（3観点評価）の明確化と課題の共有、安心・安全な学校づくり、GIGA端末やスマートスクール端末の効果的な活用の推進、健康教育、生活指導、感染症予防対策、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進

・全校児童・生徒

授業、学校生活に関わること

（4）評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・児童・生徒は概ね授業や行事に満足していることが分かったが、苦手としている学習や活動があることも分かった。
- ・保護者からは概ね満足している回答が得られているが、ICTの活用については不満である保護者の多いことが分かった。
- ・教員の働き方改革については判断できないという回答が多くみられた。

（5）評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・「情報の発信」と「個別指導計画の充実」については、90%を超える保護者の方に「満足」していただくことができた。「情報の発信」については、学校だよりをはじめとする各種お便りにおいて、可能な限り細かく情報を提供するよう工夫を重ねた結果と考える。また、紙媒体による発信を電子での配信に切り替えたことによる影響も大きいと考える。
- ・「個別指導計画の充実」については、一人一人の状態に合わせ「ウェルビーイング」を達成するために最も重要な目標について、保護者にもわかりやすくするために☆印を付けて作成した。これにより、教師のほうも保護者のほうも重点となる指導ポイントを共通理解することができた結果と考える。
- ・「ICT機器を活用した授業」については、「判断できない」という御意見の方が若干減少した程度である。「不満」に思われている方も増加しているが、この3年間、あまり変化がみられていない。学校としては、大きな課題として取り組んできているが、成果として表れていないことと改めて認識し、対応を考えていかなければならない。
- ・「健康に関する教育」は、昨年度よりも10%以上の満足度が上昇しているが、まだ、77%にとどまっている。保護者からは「性教育」に関する指導を期待する声があがっている。保健体育科と保健室、生活指導部等で連携を図り、集団での学習に加え、児童生徒の実態に合わせた個別の指導を行っていく。
- ・「教員の働き方改革」については、「満足」という回答は大きく減少し、「判断できない」という回答が増加した。校内での働き方改革の具体を保護者に伝えることができていないことが原因では

あるが、教員が心身ともに元気に児童生徒の指導に当たることができるよう働き方改革をさらに
行っていく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・児童・生徒の自由意見に子供たちの切実な意見が出ている。児童・生徒が意思を発信していくことで物事を変えていける認識をもてるように、学校として受け止めていることを継続していく。
- ・関係機関と情報共有する機会を得ることで、社会の中での学校の役割を理解することができた。
- ・協議会委員より様々な視点で学校の教育活動に意見をもらうことで、社会の中で生きていく児童・生徒をどのように育てていくべきなのかを考えるきっかけとすることができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・「自分らしく成長していくための学び」、「ウェルビーイングを目指したQOLの向上」を目指した教育課程の編成をすすめていくことの重要性を理解したうえで、カリキュラムマネジメントをすすめていくことが必要である。
- ・保護者のニーズに応えるためのGIGA端末やスマートスクール端末の活用方法が大きな課題となっていることが明らかになった。
- ・教職員のライフ・ワーク・バランスの推進について、学校として業務の精選や割振りについて考慮していく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・ウェルビーイングを目指したQOLの向上や安心・安全な学校づくりに向けて確かな力を付けられるよう、教職員一人一人の専門力の向上を図る。
- ・本校の活動の積極的で詳細な情報発信を継続し、保護者だけでなく関係機関に対しても理解を図ることができるよう努力をしていく。

（2）学習指導

- ・観点別評価に基づき、児童・生徒への指導と教材等の工夫を更に進めていく。
- ・教職員は、タブレット端末の活用について研修に努め、積極的なICT活用を図っていくとともに、保護者と授業実践についての共有を図る。

（3）生活指導

- ・避難訓練や防災宿泊訓練等、地震や火災の他、風水害等、さまざまな自然災害に関する学校の安全に関する危機を想定し、防災等危機管理体制を構築する。

（4）進路指導

- ・児童・生徒の将来の生活を見通したキャリア教育を充実させるとともに、小学部から高等部の卒業を見据えた一貫性のある指導を行う。
- ・保護者向け進路セミナー開催や保護者会での説明を通じて進路に関する最新情報を発信する。

（5）健康・安全

- ・学校保健計画に基づいた健康教育及び学校医、学校歯科医、学校薬剤師等と連携した組織的な健康教育を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

（1）協議委員人数 10名中10名

（2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

- ・アンケート調査等は行っていないが、各協議委員から、学校の取組について評価していただき、学校運営や今後の改善について期待を寄せられており、おおむね良好であると判断する。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- ・参加実績なし。

8 その他

- ・特になし。